

図書館ギャラリー利用者募集

趣味の作品や自慢のコレクションを
図書館で展示してみませんか？

- 対象：市内で活動する個人またはグループ（販売目的は不可）
※希望者が重複した場合は図書館で調整します
- 展示期間：平成31年4月～9月のうち1ヶ月
- 申込み：10月2日（火）～30日（火）に、備え付けの申込書を
図書館本館（電話：41-0894）へ

休館日

9月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

10月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

■は本館の休館日です

9月のギャラリー

今月はギャラリーの予定はありません

編集後記

まだまだ残暑が厳しいですが、真夏の頃を思えば少し秋めいて来ている気がします。そういえば、毎年夏は蚊に苦しめられるのですが、今年はほとんど出会いませんでした。けれど少し気温が下がったせいか、先日ひょっこり遭遇。あわてて逃げ出しました！（お）

けやきどおり通信（No.300）

編集・発行 碧南市民図書館

〒447-0057
碧南市鶴見町1-70-1
Tel: (0566) 41-0894



けやきどおり通信



2018年9月 ～NO. 300～



芸術の秋です。
絵画・音楽・芸能などなど、ひとくちに
芸術といっても実に多種多様です。
今月はそんな『芸術』をテーマにした本
を集めました。

『いちまいの絵』

原田マハ/著 集英社(720イ)

小説家であり、美術にも造詣が深い著者が、ピカソ、ダ・ヴィンチ、東山魁夷など、自身の作家人生に影響を与えた画家や、後世の芸術家に影響を与えた「生きているうちに見るべき名画」を厳選した1冊。

『画家の手もとに迫る原寸美術館』 結城昌子/著 小学館(723ガ)

絵画を本で鑑賞するときは、ほとんどの作品は縮小されてしまいます。例えばボッティチェリの『ヴィーナスの誕生』。この作品のサイズは172.5cm×278.5cm。とても本に入りきる大きさではありません。そこで、絵の一部分だけを切り取り、原寸大で掲載したのがこの本です。迫力の絵画鑑賞をどうぞ。

『岡本太郎にであう旅』(708オ)

大杉浩司/著 小学館クリエイティブ

「芸術は太陽と同じだ」と考えていたという芸術家・岡本太郎。彼が残したパブリックアートを、青森から九州まで、地図と共に紹介する。彫刻・絵画・レリーフ・広場などなど、バリエーション豊かな岡本芸術をご堪能あれ。

『芸術家の愛した家』

池上英洋/著 エクスナレッジ(723ゲ)

ゴッホ、モネ、ルノワールなど、巨匠たちの愛した家とはどんなものだったのでしょ^{しょうしや}うか。瀟洒な邸宅、屋根裏部屋から中世の城、果ては農家までと、作家たちが名画を生み出したルーツを辿ります。

『かわいいジャポニスム』

沼田英子/著 東京美術(702カ)

ジャポニスムとは、日本の美術が西洋に与えた影響のことを指します。この本には、西洋の芸術家たちが日本の美術の中に見つけた「かわいい」要素がぎゅっと集められています。ルノワールの絵に登場する団扇、和風な植物柄のドレス、竹をモチーフにしたティーセットなど、美しくて可愛い作品からお気に入りを見つけてみませんか？



『最後の恋』(702サ)

ティートマー・グリーザー/著 北樹出版

ゲーテやモーツァルトなど、芸術家たちの晩年を彩った恋について、その光と影を客観的に綴る。

『めくるめく現代アート』 寛葉奈子/文・絵 フィルムアート社(702メ)

難しそうなイメージの現代アートですが、本書では戦後から現在に至るまでの個性豊かなアーティスト40人を取り上げ、代表作や動向、本人の肖像や言動に至るまでを紹介しています。豊富なイラストを^{しるべ}標に、新しいアートに触れてみませんか？

『客席から見染めたひと』 関 容子/著 講談社(772キ)

舞台を彩る芸術家たちの素顔に迫るインタビュー集。俳優の仲代達矢、落語家・春風亭小朝、文楽の人形遣い・桐竹勘十郎など、いずれも個性的な16人の素顔とは。

『阿川佐和子のワハハのハ』 阿川佐和子/著 文藝春秋(914ア)

週刊誌の連載対談を集めたエッセイ。宮沢りえや堺正章などの俳優や、ギタリストの村治佳織、落語家の立川談志などとの対談は、沢山の笑いと涙にあふれています。全22篇を収録。

『音楽家の名言 1～3』(762オ)

檜山乃武/編・著 ヤマハミュージックメディア

「音楽とは何か?」「前を向いて進むために」など、4つのテーマごとに、古今東西の音楽家の名言が詰まった本。

『野村万斎 What is 狂言?』(773ノ)

野村万斎/著 網本尚子/監修・解説 檜書店

狂言師・野村萬斎が、ファンから寄せられた質問に易しく答えます。舞台写真やあらすじ、用語解説も掲載。狂言の世界を覗いてみましょう。



【小説で読む芸術】

『革命前夜』 須賀しのぶ/著 文藝春秋(Fス)

昭和が終わったその日。バッハに魅せられ、東ドイツにピアノ留学した真山を迎えたのは、住民が互いを監視しあう鬱屈とした町ドレスデンだった。だが彼は、そこで魂を揺さぶられるような音楽に出会う。革命と音楽が高らかに鳴り響く冷戦下のドイツを舞台に、ひとりの青年の成長を描く。

『深淵のガランス』 北森 鴻/著 文藝春秋(Fキ)

花師と絵画修復師という二つの顔を持つ男・佐月恭吾。あるとき彼の元に舞い込んだ修復の依頼品は、大正末期に活躍した洋画家の傑作だった。パリの町並みを描いたその絵の下には、別の絵が隠されていて……。そこに秘められた謎とは？

『壺中の回廊』 松井今朝子/著 集英社(Fマ)

舞台は昭和5年の東京。「忠臣蔵」の舞台上で殺人事件が起きる。容疑者は役者、裏方、観客たち。だが、嘘をつくのが商売の役者たちのせいで捜査は難航してしまう。警察からの捜査協力に駆り出されたのは、江戸狂言作者の末裔・桜木治郎だった。戦前の混沌とした日本を背景に展開する長編ミステリー。

『かぜまち美術館の謎便り』 森 晶彦/著 新潮社(Fモ)



イクメンでカリスマ学芸員のパパと、幼稚園児のかえでの推理が冴える、ハートフルな短編美術ミステリー。ピカソやマティス、ゴッカン、シャガールなどの名画の解釈をもとにして、解き明かす謎とは？

『桜姫』 近藤史恵/著 角川書店(Fコ)

歌舞伎役者の跡取り息子として将来を囑望された音也が、幼くして亡くなった。それ以来、妹の笙子は兄を殺す夢を見るようになり、いつしか自分が殺したのではないかと思い始める。罪の意識を抱えながら成長した笙子の前に、兄の親友だったという若手歌舞伎役者・市川銀京が現れた。音也の死の真相を探る銀京を、いつしか愛してしまった笙子は……。

『骨董屋征次郎手控』 火坂雅志/著 実業之日本社(Fヒ)

『禁じられた楽園』 恩田 陸/著 徳間書店(Fオ)

『こっちへお入り』 平安寿子/著 祥伝社(Fタ)

『しゃべれども しゃべれども』 佐藤多佳子/著 新潮社(Fサ)

『冷静と情熱のあいだ Rosso』 江国香織/著 角川書店(Fエ) 文庫有

『冷静と情熱のあいだ Blu』 辻 仁成/著 角川書店(Fツ) 文庫有

『匿名芸術家』 青木淳悟/著 講談社(Fア)

『時を巡る肖像 絵画修復士御倉瞬介の推理1』 柄刀 一/著 実業之日本社(Fツ)

『注文の多い美術館』 門井慶喜/著 文藝春秋(Fカ)

『ご近所美術館』 森福 都/著 東京創元社(Fモ)

『大絵画展』 望月諒子/著 光文社(Fモ)

『北斎まんだら』 梶よう子/著 講談社(Fカ)

【映画で見る芸術】

『海の上のピアニスト』 ジェ ッパ・トルネー/監督 パラマウント・インターナショナル・ジャパン(DV778ウ)

『アマデウス』 ミス・フォアソ/監督 ワナー・ホーム・ビデオ(DV778ア)

『恋におちたシェイクスピア』 ジョシ・マッデソ/監督 エンバーサル・ピクチャーズ・ジャパン(DV778コ)